

臨床研究「当院における直腸脱症例における手術成績の検討」についての情報公開

直腸脱では肛門痛や出血、失禁などの苦痛を伴い、患者の苦悩は大きいです。治癒させるには手術が必要となります。手術には大きく分けて経肛門的手術と経腹的手術の2種類があります。経肛門的手術は脱出腸管の切除・縫縮や肛門の縫縮を行う方法です。侵襲が小さく高齢者にも行いやすい一方、30-40%という再発率が問題となるとされています。経腹的手術は直腸の固定を行う方法です。5%前後という低い再発率が利点とされていますが、手術侵襲がやや大きいとされています。

近年、海外にて直腸脱に対する経肛門的手術と経腹的手術の手術成績を比較する研究が行われましたが、術後の再発率を含め、手術成績に差がないという結果となりました。このため、直腸脱に対する術式選択をどのようにすべきかについて、専門家の間でも意見の統一が得られていないのが現状です。そこで手術術式のみならず、脱出の程度や排便造影などの画像検査所見、肛門内圧など機能検査、年齢や性別、術前の併存症などの背景因子と手術成績の関連について検討を行い、適切な手術術式の選択法を確立することを目的として、これまで当院で手術を行った直腸脱の手術症例を対象とした後ろ向き観察研究を計画しました。

研究対象期間：2007年1月～2025年5月まで。

研究対象：上記期間に東北労災病院大腸肛門外科で手術を受けた直腸脱患者さま。

方法：診療録の記載内容から収集された、患者背景や検査所見、手術因子、手術成績のデータを用いて検討を行い、当院における直腸脱の術式選択と手術術式毎の手術成績を明らかとします。また手術成績からみた各手術術式の好適症例を検討します。解析を行う際には氏名や手術日などの個人を同定できるデータは削除した形で行い、特定の患者さんに直接の不利益がもたらされることはないよう最大限の配慮を行います。

なお、研究に関するお問い合わせ、ご意見、研究協力拒否等のご要望につきましては、研究代表者までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

研究代表者：

独立行政法人労働者健康安全機構 東北労災病院
大腸肛門外科 高橋賢一

TEL 022-275-1111, FAX 022-275-7541

〒981-8563 仙台市青葉区台原4丁目3-21